

わが

「人が輝く交流体感都市」の実現を目指して

はじめに

七尾市は、石川県の北部、世界農業遺産に認定された能登半島の中央に位置しており、北は七尾湾、東は富山湾に面した風光明媚

な里山里海が多く残る自然豊かな都市です。

七尾港を海の玄関口とし、古くから能登の政治、経済、文化の中心地として栄え、歴史的価値の高い七尾城跡や能登国分寺跡などの史跡、青柏祭の曳山行事、日本遺産に認定された石崎奉燈祭、そして熊甲二十日祭の杵旗行事などの貴重な有形・無形の文化財が数多く存在し、高い技術力を誇る七尾仏壇や田鶴浜建具などの伝統産業も集積しています。

また、能登島とそれを取り囲む七尾湾やその沿岸部などは、能登半島国立公園に指定されており、豊かな自然が残っています。その自然を背景に、能登野菜、いきいき七尾魚などの新鮮な食材や開湯1200年の歴史を持つ和倉温泉などの恵まれた地域資源を生かし

た観光が地域の大きな産業となっています。

現在、これらの伝統文化や伝統産業をしっかりと受け継ぎ、さらなる飛躍を遂げるため、本市に愛着を持つ人づくりを進めるとともに、豊かな地域資源を最大限に活用して、本市を訪れた方や市民がその魅力を体験・感動し、交流する「交流体感都市」の実現を目指し、さまざまな分野にわたり着実に事業を進めているところであり、

交流人口の拡大を目指して

本市が誇る「和倉温泉」への入込客数は、平成3年の約160万人をピークに減少し続け、平成24年には約78万人まで減少しました。

こうした中、本市では、減少し続ける交流人口に歯止めを掛けること、そして拡大を目指して、平成19年から「スポーツ合宿・大会の誘致」に取り組んでいます。市内の和倉温泉と能登島に建設したサッカーグラウンド5面を中心に、合宿や大会が開催されており、週末になると多くの小中学生、高校生、大学生などが集まり、年間約11万人もの利用者が本市を訪れております。

平成27年7月には、和倉温泉に北陸最大級の24面のテニスコートを整備し、そして、本年7月には、学童専用野球場2面を整備して、スポーツ合宿のメッカを目指して、さらなるスポーツ合宿や大会の誘致を図っております。

平成27年3月には、北陸地方の悲願であった「北陸新幹線の金沢開業」そして、平成27年2月には「能越自動車道七尾水見道路」が開通しました。この好機を追い風として、さらなる交流人口の拡大のため、幕末から明治にかけて加



平成28年春に開館した「花嫁のれん館」

賀藩の領地であった能登・加賀・越中で始まり、今もなお続いている婚礼の風習である「花嫁のれんぐり」を体験できる「花嫁のれん館」を市内中心市街地に整備しました。

その結果、平成27年の和倉温泉への入込客数は、11年ぶりに約100万人を超え、多くの皆さまに本市へお越しいただくことができました。引き続き、本市にある「祭り・文化・自然」などの豊富な地域資源に磨きを掛け、交流人口の拡大を図ってまいりたいと考えております。

創業しやすいまちづくり

平成19年度から市内での起業を支援するため、「のと七尾起業塾」などを開催してきましたが、起業に結びつく件数が少ない状況にありました。そこで、平成25年度に（通称）「シャッターオープン事業」（商店街空き店舗等対策事業）を創設、さらに平成26年1月に「七尾商工会議所、のと共栄信用金庫、日本政策金融公庫、七尾市」の4者で創業支援に関する協定書を締結、「ななお創業応援カルテット」を設立し、創業しやすい

環境の整備を行っております。

「ななお創業応援カルテット」では、ワンストップで創業者のステージに応じた支援メニューを用意しており、第1ステージの「創業に関心がある」段階では、創業セミナーや創業塾の開催、会報でお役立ち情報の提供、第4ステージの「創業への準備」の段階では、資金調達支援など、各創業者のステージに合わせた支援を実施しております。

また、創業に関する相談会を月1回ペースで開催し、創業者が事業を始めて以降も支援を継続しております。月1回4者の担当者が集まり、起業者のその後もフォローし、浮かび上がった経営課題の検証と創業者へのアドバイスも実施しております。

カルテット開始から今年4月までに、99件の相談があり、39名の方が創業し、短期間で高い創業率であることから、県外の自治体からも関心が高く、具体的な取り組みや事業の進め方について視察や問い合わせが多く寄せられています。このカルテットも1つの要因となって「住みたい田舎」ベストランキング（田舎暮らしの本2016..

宝島社）においても、「チャレンジしたい若者におすすめの田舎部門」1位を獲得することができました。

この良い流れを、さらに大きなものとし、県外・市外からの創業したい方を受け入れ、移住・定住につなげていく取り組みを進めてまいりたいと考えております。

プロフィール

- ◆ 面積 318・32km²
- ◆ 人口 5万4920人
- ◆ 世帯数 2万2186世帯

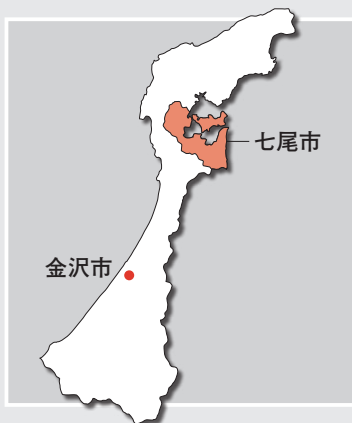
〔将来都市像〕七尾湾と温泉を活かした能登から世界への架け橋「人が輝く交流体感都市」

〔まちの特徴〕世界農業遺産に認定された能登半島の中央部に位置する能登の中心都市。能登観光拠点の和倉温泉がある

〔市町村合併〕平成16年10月1日、七尾市、鹿島郡田鶴浜町・中島町・能登島町が合併



七尾市長
不嶋豊和



おわりに

「人が輝く交流体感都市七尾市」の実現に向けて、交流人口の拡大、創業しやすいまちづくりなどを着実に進め、本市を訪れた方や市民が感動と幸せを実感でき、安心して住み続けることができるまちにしていきたいと考えております。

〔特産品〕田鶴浜建具、七尾仏壇、和ろうそく、いきいき七尾魚、能登かき、能登ふぐ、能登なまこ、能登野菜（中島菜、沢野ごぼうほか）

〔観光〕七尾城跡、和倉温泉、能登演劇堂、石川県能登島ガラス美術館、石川県七尾美術館、のとじま臨海公園水族館、花嫁のれん館

〔イベント〕田鶴浜住吉大祭、花嫁のれん展、青柏祭、能登島向田の火祭り、石崎奉燈祭、お熊甲祭、能登和倉万葉の里マラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市制30周年 ステツプアツプ幸手

市制30周年

幸手市は、江戸時代には、五街道の一つである日光道中と御成道が合流し、さらに筑波道が分岐する宿場町として栄えてきました。

明治の町村制施行に伴い幸手町が誕生、高度成長期には、東京のベッドタウンとして発展、人口が急増し、昭和61年10月、市制施行に至りました。

そして、本年、市制30周年を迎えます。桜まつりにおいて、市民協働事業として花火を打ち上げたり、各種イベントを30周年記念として盛大に実施したり、デマンド交通、道路の愛称やご当地ナンバープレートのデザインを募集するなど、年間を通して30周年を盛り上げていきます。さらに10月1日（土）には、特別表彰などを行う記念式典を開催します。

圏央道の開通と企業誘致

平成27年3月、首都圏中央連絡自動車道の久喜白岡ジャンクション

ンから茨城県の境古河インターチェンジまでの区間が開通し、同時に、幸手インターチェンジも開通しました。さらに、本年度中には、茨城県内の未整備区間も完成し、幸手インターチェンジから、東名高速道路や東関東自動車道にもつながり、八王子や成田空港まで約1時間となります。

幸手インターチェンジ東側には、47haの産業団地を整備し、企業誘致を行っています。既に、ほとんどの区画の進出企業が決定しており、着工している企業もあります。今後の地域経済の活性化や雇用の拡大が期待できます。

子育てをするなら 幸手市で

本市は、子育て応援日本一を目



首都圏中央連絡自動車道（圏央道）幸手IC

指しています。本年度から、「子育て総合窓口（ワンストップ窓口）」を設置しました。窓口では、妊娠、出産、子育てに関する相談に対して、専門員（母子保健コーディネーター）、保育コンシェルジュ）が丁寧にお答えするとともに、さまざまなサービスをスムーズに申請することもできます。

保育所は、本年度、民間の認可保育所1所、小規模保育園1園が開設され、平成29年度は、市立保育所の新築移転を予定しています。



手をつなぎ、幸せあふれる幸手市に！

市制施行30周年マスコットキャラクター「さっちゃん」

学校においては、本年度から全小学校で週2回、放課後、4年生～6年生の希望者にボランティアの先生が学習支援を行う、さつてアフタースクールを実施しています。また、全小・中学校の学校給食は自校調理方式で実施しており、給食費については、保護者の負担軽減のため、第2子は半額、第3子以降は全額の補助を行っています。

囲碁のまち幸手

平成15年、本因坊8世伯元（はくげん…1726年～1754年）、9世察元（さつげん…1733年～1788年）の墓が市内の共同墓地で見つかりました。その後、10世烈元（れつげん…1750年～1808年）の墓も発見されました。

本因坊とは、江戸時代の囲碁の家元4家の一つです。代々世襲制でしたが、昭和14年以降は本因坊戦の勝者に与えられる称号になっています。

各小学校ではボランティアの囲碁指導員が子どもたちに



県営権現堂公園幸手桜堤・曼珠沙華まつり

囲碁を教えていて、毎年、子ども囲碁大会を開催しています。また、平成27年には、第1回「幸手本因坊」・「幸手子ども本因坊」囲碁大会として開催し、3代の本因坊のふるさととして、囲碁普及に取り組んでいます。近い将来、本市出身の本因坊が生まれるのを楽しみにしています。

さくらのまち幸手

本市の花は桜です。市内の権現

堂桜堤は、大正時代、約6kmに3000本のソメイヨシノが植えられ、関東の桜の名所となり、大変にぎわっていました。太平洋戦争末期に薪として伐採されたため、昭和24年に改めてソメイヨシノが植樹されました。現在は、約1000本の桜が1kmに渡り花のトンネルを築き、堤周辺に作

付けされた菜の花の黄色と桜のピンクのコントラストは、テレビなどでも紹介され、多くの観光客を呼んでいます。さらに、夏はあじさい、秋は曼珠沙華、冬は水仙が植えられ、1年中、花を楽しめる堤となり、今では、年間200万人を超える観光客でにぎわっています。

プロフィール

- ◆ 面積 33・93km²
- ◆ 人口 5万2611人
- ◆ 世帯数 2万2394世帯

〔将来都市像〕 都市と自然が調和した安心・安全で活力あるまち幸手

〔まちの特徴〕 歴史ある宿場町からベッダタウンとして拡大した街と稲作が盛んな田園の調和がとれたまち

〔特産品〕 米・酒・あい鴨加工品

〔観光〕 権現堂桜堤、日光街道・幸手宿



幸手市長
渡辺邦夫



〔イベント〕 桜まつり、幸手市さくらマラソン大会、あじさいまつり、八坂の夏祭り、曼珠沙華まつり、市民まつり、水仙まつりなど

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

市民主体で実現する「幸せが実感 できるまち」長久手を目指して

わずらわしいまちづくり

長久手市は東洋経済新報社の「住みよさランキング」において、平成27年・本年と全国2位、とりわけ快適度では5年連続全国1位という評価をいただいております



日本初の磁気浮上式リニアモーターカー「リニモ」

が、今あえて「わずらわしいまちづくり」をつくろうとしています。今後さらに増加が予想される介護保険などの扶助費を抑え、市民主体で幸せが実感できる

まちづくりを進めていくためには、わずらわしさが必要になると考えています。

長久手市の紹介

本市は110年前、3つの村が合併して誕生し、45年前の町制施行を経て、平成24年1月に市となりました。天正12年(1584年)に羽柴秀吉と徳川家康が戦った「小牧・長久手の戦い」の舞台となったまちです。合戦にまつわる史跡や文化財が数多く残る歴史のまちである一方、名古屋市東部に隣接する快適な住環境都市でもあります。また、平成22年の国勢調査では平均年齢37・7歳と日本一若いまちとなりました。

土地区画整理事業を中心とした都市基盤整備により人口が増加し続ける中で、平成17年に「2005

年日本国際博覧会(愛・地球博)」が市内を主会場に開催され、一層の脚光を浴びることとなりました。

万博開催を契機に日本初の磁気浮上式リニアモーターカー「リニモ」による軌道系交通網や、名古屋瀬戸道路をはじめ基幹道路の整備も進みました。

こうした経済的な豊かさが向上していく一方で、住民の幸福度はどうなのかと考えますと、昔と比べて今が良いとは言いいきれないのではないかと思います。経済的な発展の代償として、家族や地域、人と人とのつながりが崩壊し、保育園の園児の声がやかましいという苦情が出るなど、昔では考えられなかったような地域の問題が発生しています。

日本中が、山の頂上ただ一点を目指して、一目散に駆け上がった

いく時代は終わり、360度に広がる裾野の、どの方向に下りていくのが正解か分からない、山を下りていく時代へと変わりました。社会の仕組み、価値観が大きく変わりつつあるのです。

住民にたつせがあるか

本市もいざ訪れる高齢化の波は避けられないでしょう。それでは、超高齢社会となるまちをどのように支えれば良いのでしょうか。私は、住民に居場所と役割があるかが重要だと思っております。つまり、「たつせがあるか」です。たつせがあるというのは「立つ瀬がない」の対義語で「誰もが役割を担い、活躍し、必要とされ生きがいを持って楽しく過ごすことができる」ことを表した市の造語です。

まちづくりにおける役割について考えると、まるで、行政が住民の委託業者になってしまっているかのようです。効率を追求し、わずらわしさを排除していった結果、近所の方を助けたり、庭先を

掃いたりしなくなり、身の回りの物事さえ自治体任せにしてしまったのです。

こうした手法は、効率は良くとも、地域の問題を地域自身、住民自らの手で解決しないため、住民は多くの場合、当事者ではなく、批評家・評論家となってしまいがちです。今後、人口減少により個人の所得や行政の予算は確実に縮小します。金銭で解決できない地域の問題に対処していくには、住民が今一度わずらわしいことにかかわる仕組みをつくり、

まちの問題は、住民一人一人が当事者であるということを変更して認識し、住民自らの手で解決する必要があります。こうしたわずらわしい時代に向けて、皆で今から学習する必要があります。

「きょうよう」と「きょういく」

次に重要となるのが、いかに健康寿命を延ばすかです。これには「きょうよう」と「きょういく」が大切だと思います。



愛知県の無形民俗文化財に指定されている「岩作警固祭り」

「今日、用がある」「今日、行くところがある」という、「きょうよう」と「きょういく」です。仕事をリタイアされた方が家に閉じこもっていても、ご自身の健康のためにも良くないですし、いずれ寝たきりになって介護保険などの赤字を増やすことになりかねません。

寝たきりになって孤独な状況になることを防ぐ最も良い方法は、これもわずらわしいことですが、さまざまな事柄にかかわって、いてまちで居場所と役割を見つけ、生きがいを見いだすことだと思います。人間が幸せになる4要素は、人に愛されること、人に褒められること、人の役に立つこと、人から必要にされることだと言わ

れます。居場所と役割があり、誰かに必要とされていると感じられることが、幸福で心身ともに健康でいられることの秘けつだと思っております。

こうしたことから、本市では、年に1回市内1カ所で実施している総合防災訓練を、4年前から小学校区ごとに地域主体で実施する市内一斉防災訓練としました。また、誰もが気軽に集まり、それぞれが思い思いに過ごせる「地域共生ステーション」を整備し、自治

プロフィール

- ◆ 面積 21・55 km²
- ◆ 人口 5万5866人
- ◆ 世帯数 2万2600世帯

〔将来都市像〕人が輝き 緑があふれる 交流都市 長久手

〔まちの特徴〕都市と緑豊かな田園風景をリニアモーターカー「リニモ」が つかぐ歴史と文教のまち



長久手市長
吉田一平



〔観光〕愛・地球博記念公園、古戦場公園、トヨタ博物館、長久手温泉「ざらっせ」、長久手市文化の家、名都美術館

〔イベント〕長久手古戦場桜まつり、ながくてアートフェスティバル、警固祭り、ながくて市民まつり

会や各種活動団体などをネットワーク化した「まちづくり協議会」の立ち上げといった施策を進めているところです。

遠回りするほど大勢が楽しめ、うまくいかないことがあるほどいろいろな人に役割が生まれると思います。効率重視のまちづくりの中で失われていったものに改めて着目し、人が孤立することなく皆がつながって暮らす、わずらわしくとも幸せが実感できるまちを目指していきたいと考えています。

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

未来へつなぐ 自然と歴史が融合したまち

はじめに

小松島市は紀伊水道に面する自然環境に囲まれた都市であり、温暖な気候と剣山水系の伏流水の恩恵を受け、年間を通じて豊富な農水産物に恵まれています。

古くから四国屈指の天然の良港である小松島港を中心に、海陸交通の要となる港湾都市として発展してきました。現在でも南部は農



世界で一番の大きさを誇るたぬきの銅像

業、臨海部は漁業、工業とそれぞれの地形と特質を生かした産業が営まれています。

また、歴史に関しては、平安時代に屋島に逃れた平家を討つために小松島を訪れた「源義経の物語」や商売繁盛の神様として人々に親しまれている「金長たぬき」が有名です。

本市では狸合戦の史跡をはじめとする狸関連の事物をまちづくりにかかず取り組みが盛んであり、市内随所にそのモニュメントやウォールアートが見られます。特に、市内中心部の公園内には世界で一番の大きさを誇るたぬきの銅像があり、市民の憩いの場として親しまれています。

市民の生命を守るために

近年の東日本大震災をはじめ、

本年発生した熊本地震など、全国各地で未曾有の災害が発生しています。南海トラフ巨大地震・大津波の発生が懸念される中、本市では防災・減災対策を最重要課題の一つと位置付けています。

平成26年度に整備が完了した雨水ポンプ場では、建設工事中に東日本大震災が発生したことも踏まえ、最大級の津波にも耐え得る建物構造に設計変更を行うとともに、ポンプ場の周辺には津波発生時に一時避難が可能な高い建物が少ないため、最屋上部を津波一時避難場所として整備しました。

また、本年には沿岸部付近の公園内に西日本初となる盛り土方式による津波避難施設が完成しました。高さが5.5m、1辺46mの正方形の形状で、のり面には階段とスロープを設置し、スロープを含

めた頂上広場には区域内の全住民が避難できます。

地震・津波以外にも台風や局地的な集中豪雨による浸水被害や河川の氾濫、土砂災害など、さまざまな災害に備える必要があります。小松島市地域防災計画と都市計画マスタープランの連携により、ハード・ソフトの事業を総合的に組み合わせた施策の推進に取り組んでいます。

「みなと」を生かしたまちづくり

徳島小松島港の小松島港区は新港地区、金磯地区、赤石地区の3地区から構成されています。

新港地区では、平成11年のフェリー航路の廃止に伴い使用されなくなったフェリーターミナルビルと周辺緑地をまちづくりに活用するため、官民連携の活用策の検討が行われ、平成16年に「みなとオアシス」として登録・認定されました。オアシス内の交流広場で開催される「こまつしま・うまいも

ん祭り」や「海鮮朝市」では、旬の農林水産物や加工品などの販売を行い、現在では本市を代表するイベントとなりました。

赤石地区では、四国最大級のガントリークレーンを備えたコンテナターミナルが整備され、四国と世界を結ぶ国際コンテナ物流拠点としての役割が期待されています。

本市では、毎年複数のクルーズ客船の受け入れを行っています。今年5月には英領バミューダ船籍のクルーズ客船「ゴールデン・プリンセス」が、赤石地区の岸壁に初寄港し、多くの外国人乗客が観光バスに分乗し、小松島市内を含む県内各地を訪れました。こうしたインバウンドによる交流人口の増加を図るためにも、地域資源・観光資源の掘り起しを行い、本市の特色を生かした地域振興に努めていきます。

こまつしまブランドの魅力発信

地場産業を強化することで地域の活性化を推進するため、地元農協・漁協などが取り組んでいる農林水産業ブランド製品の育成をはじめ、こまつしまブランド戦略

推進協議会による県内外の物産展でのPR事業などを行っています。

ブランド製品の育成と安全・安心な農産物の供給体制を確立するために農協が設立した四国最大級の産直市である「みはらしの丘・あいさい広場」は、本年4月より徳島バスの定期運行便が開通となり、さらなる集客数の増加や地域住民の買い物における利便性の向上が期待されています。また、一層の地産地消を進めるために、現在の施設の北側に集出荷施設の拡張が予定されています。

6次産業化についても、平成26年度から市内の農林水産物を利用した商品開発や改良、生産から販売までの体制を構築するための支援を行っています。また、商工会議所や農協、漁協などから構成される6次産業化ネットワーク組織などへの設立支援を行い、販売促進や販路拡大を図っていきます。

おわりに

人口減少・少子高齢化社会の進展を踏まえ、高齢者をはじめ多くの人にとっての暮らしやすさの向上を図るために、生活に必要な都市機能がコンパクトに集約された

持続可能なまちづくりが重要であります。

本市の清流や緑豊かな山林などの美しい自然景観のほか、歴史・文化を感じさせる町並みなど多様な景観資源を次の世代へ引き継ぐため、土地利用や都市施設整備と調和を図り、住む人が満足し、訪れた人が魅力を感じられるよう、本市の個性や特色を生かしたまちづくりを推進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 45・3 km²
- ◆ 人口 3万9363人
- ◆ 世帯数 1万7191世帯

〔将来都市像〕安全・安心・信頼のこまつしま（第5次総合計画「平成29年3月末まで」における将来像）

〔まちの特徴〕徳島県の東部中央に位置し、山と海に囲まれた自然豊かなまち
〔特産品〕ヤマモモ、イチゴ、菌床しいたけ、竹ちくわ、フィッシュユカツ、チリメン、ハモ、ワカメ



小松島市長
濱田保徳



〔観光〕小松島ステーションパーク（たぬき広場、SL広場）、しおかぜ公園、義経ドリームロード、日峰ミニ四国八十八ヶ所、立江寺、恩山寺
〔イベント〕小松島春のまつり・金長まつり、小松島港まつり、こまつしま・うまいもん祭り、義経夢想祭



市を代表するイベントの一つ「こまつしま・うまいもん祭り」

※ 面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。